一般社団法人 巨樹の会　新宇都宮リハビリテーション病院

新宇都宮タイムズ

Shin-Utsunomiya Rehabilitation Hospital PR Magazine

2026 Vol.12

CONTENTS

2 | ・医療を考える会
・関東KG合同学術大会
・日本作業療法学会
3 | ・みね秋祭り
・健康教室
・福祉協力員研修旅行（峰地区社会福祉士協議会）
4 | ・関東KG医療連携会（栃木3病院合同）
・実績DATA
5 | ・心の交流会
・むすびプロジェクト
6 | ・運動会
・ラオス講演会
・手指衛生勉強会
7 | ・移乗動作介助
8 | ・Instagram
・交通のご案内

クリスマス イルミネーション

冬の夜をそっと照らすイルミネーションが、今年も病院にやさしい光を届けています。

寒い日が続きますが、この明かりが少しでも心をあたため、みなさんの気持ちをやわらかくしてくれたら嬉しいです。

患者さん、地域の皆さん、職員の皆さんのほっと一息つける時間になりますように。

LRTからもふと見える場所なので、通りがかりに眺めてもらえたら嬉しいです。

インスタグラム Instagram

新宇都宮リハビリテーション病院
公式Instagramでも、
病院情報や行事予定など紹介しております♪

@SHINUTSUNOMIYA_REHA

交通のご案内

※ 新4号方面よりお越しの方「陽東3丁目」交差点通過後、2つ目の信号をUターンしてください

お車でのご来院
- 東北自動車道　宇都宮ICより約40分
- 東北自動車道　鹿沼ICより約30分
- 北関東自動車道　宇都宮上三川ICより約20分
- JR宇都宮駅東口より鬼怒通りを進み約6分

公共交通機関でのご来院
- LRT

「JR宇都宮駅東口」停留場より約5分

最寄停留場名
「陽東3丁目（新宇都宮リハビリテーション病院前）」 より徒歩3分

カマチグループ
一般社団法人 巨樹の会
新宇都宮リハビリテーション病院
〒321-0941
栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号
TEL 028-666-4880
FAX 028-666-4887

日本医療機能評価機構 認定第 JC2559 号

当院HP

医療を考える会

10月25日

令和7年10月25日(土)、第4回　医療を考える会2025が開催されました。

「キャリアと多職種連携を考える」というテーマで、令和健康科学大学メインホールにて行われました。

各職種が専門性を活かし、患者さん一人ひとりのその人らしさを支える看護の提供について学びを深めました。また、「チーム医療」における多職種連携の大切さを改めて感じる時間となりました。　　リハビリテーション課　秋元

関東カマチグループ合同学術大会

9月22日

令和7年9月22日(土)、関東カマチグループ合同学術大会が行われました。

今回はフリーテーマで行われ、医療連携室として「退院支援における業務効率化の取り組みについて～受け入れ状況の施設一覧表を作成して～」という演題で発表させていただきました。今回の取り組みでは、施設選定時の業務効率化を図ることを目的として、①施設選定時の業務内容に関して、MSWにアンケートを実施する。②高齢者施設へ施設実態調査を行い、その結果を一覧表にする。③MSWが施設選定を行う際、作成した一覧表を活用する。④再度MSWにアンケートを実施し、一覧表の使用前後で比較を行いました。一覧表を使用することで選定時間の効率化が図れ、精神的負担も軽減できたことが判りました。今回の取り組みは、現在の業務にも活かされており、患者さんの退院支援に役立っています。今後もより良い退院支援ができるよう医療連携室として努めてまいります。　　医療連携室　増渕

日本作業療法学会

11月7日～9日

令和7年11月7日(金)から9日(日)の3日間「第59回日本作業療法学会」に4名で参加してきました。

様々な教育セミナーを聞いたり、最新の治療機器を体験したりすることができ良い刺激になりました。

ポスター発表では、参加者それぞれが症例を発表し、全国の作業療法士から質問をいただくことで新たな視点を学ぶことができました。今後の臨床に活かしていけるよう、さらに知識を深めてまいります。　　リハビリテーション課　大森

みね秋祭り

11月8日

令和7年11月8日(日)、峰小学校で開催された「みね秋祭り」に参加しました。

クラフト体験ではアクセサリーやコースターを作成し、リハビリ作業の体験をしてもらいました。

血圧測定やロコモ診断は幅広い年齢で参加希望があり、参加者の皆さんの健康意識の高さがうかがえました。

訓練用のAEDを使用した救急救命体験では「自分の子どもがAEDを使えるとは思わなかった」「学校でやったことをもう一度やれてよかった」という声が多く聞かれました。

冬らしい冷たい風が吹く中ではありましたが、日中は長袖だと暑く感じるくらいの熱狂ぶりで、これを機会に当院のことを知ってもらえたら嬉しいです。

医事課　増田

健康教室

8月22日

令和7年8月22日(金)、市内の自治体にて健康教室を開催しました。

今回は「食事」と「簡単にできる運動」をテーマに、講義と実技を行いました。

講義では、タンパク質やミネラルなど栄養面のポイントを説明し、運動では、上肢・下肢の筋力トレーニングや腰痛・転倒予防につながる体操を中心に実施しました。

参加者の皆さまには積極的にご参加いただき、「また参加したい」「運動を続けたい」という声も多く寄せられ、大変好評でした。

リハビリテーション課　軍司

峰地区社会福祉士協議会 福祉協力員研修旅行

10月7日

令和7年10月7日(火)、峰地区社会福祉士協議会・福祉協力員の皆さまが、研修旅行の一環で当院に来院されました。

日々、地域の福祉活動に貢献しておられる方々に、地域医療の一端を担う当院の取り組みをご紹介させていただきました。また、貴重なご意見をいただき、大変有意義な時間となりました。

今後も地域の方々と繋がりながら、より良い医療の提供に努めてまいります。　　総務課　礒

栃木3病院合同 関東カマチグループ医療連携会 10月23日

令和7年10月23日(木)、関東カマチグループ医療連携会(栃木3病院合同)をヴィラ・デ・マリアージュにて開催しました。

医療連携会は2部構成となっており、1部の「連携会」では、実績報告と身寄りに問題を抱え意思表示が困難な患者さんへの退院支援について発表しました。

2部の「懇親会」では、来賓の皆様からご挨拶・乾杯の発声をいただき、盛大に催されました。1部の連携会での発表は、2部の懇親会でも反響をいただき、日頃、連携を取らせていただいている医療・介護関係者の方々と、対面でご挨拶出来たことで、より一層連携を深められたことを実感しています。

218名と大変多くの方にご来場いただきました。今後、さらに皆様のご期待に応えられるように、引き続き北関東最高のリハビリテーション病院を目指し、職員一同努めてまいります。

医療連携室　海老原

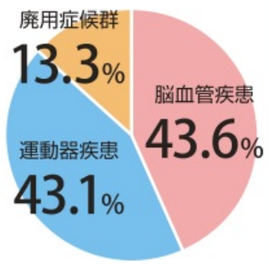
新宇都宮リハビリテーション病院 実績DATA

令和7年度の実績をご紹介します。
(令和7年4月1日～令和7年9月30日)

患者受入総数

566名

疾病別内訳



在宅復帰率

94.2%
全国平均79.1%

入院患者さんの平均年齢

76.2歳
全国平均76.9歳

紹介から入院までの日数

8.4日
全国平均12.4日

患者満足度

評価点
90.8/100点

※令和7年度 退院時アンケートの評価点より

心の交流会 言葉をつなぐ、心をつなぐ ― 失語症の理解と支援 ―

退院された患者さんとそのご家族を対象に、当院で『心の交流会』を開催しました。「心の交流会」とは、病気の当事者・ご家族に地域とのつながりを作るきっかけにしていただくことを目標とした交流の場です。その中で「失語症の理解と支援」をテーマにした講演会も行い、言語聴覚士(ST)の立場から、日常生活で役立つコミュニケーションの工夫・公的支援制度・栃木県の取り組みを紹介しました。

脳卒中などの後遺症で、「話す・聞く・読む・書く」が難しくなる。そんな「失語症」は、外から見ても分かりにくい障がいです。耳や知能の問題ではなく、脳の言語をつかさどる部分が損傷することで起こります。本人は「知らない国に一人で置かれたような感覚」と表現することもあり、周囲の理解が欠かせません。

ゆっくり・短く・わかりやすく話すこと、絵や文字・ジェスチャーを使うこと、答えを急がず待つことなど、身近な実践が大きな助けになります。

「意思疎通支援事業」という公的支援制度では、失語症の方に専門の支援者が同行し、病院や役所、銀行などで手続きのサポートが受けられます。地域活動や外出の支援目的でも利用が可能です。市町村の障害福祉窓口で登録すれば無料で利用でき、栃木県では2020年から支援者の養成が始まりました。現在では支援者の数も増えてきています。

講演の最後には、栃木県内の失語症当事者の会や栃木県言語聴覚士会が主催する「失語症会話サロン」も紹介しました。当事者やそのご家族、支援者が集まり、お茶を飲みながら会話を楽しむ交流の場です。開催情報は「栃木県失語症情報館」で確認できます。

失語症は「言葉の病気」ですが、工夫と支援で、思いは必ず伝わります。当院では、患者さんとご家族が安心して生活を再開できるよう、これからも支援を続けてまいります。

リハビリテーション課　言語聴覚士　山口

"ご本人・ご家族を中心に地域の力をむすびたい"
"私たちのリハビリテーションの力を活かしたい"

むすびプロジェクト

リハビリテーションが必要な方が、住み慣れた地域で必要なリハビリテーションのサービスを受けられる社会を作る!

むすびプロジェクト

「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者様が、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

福祉と医療の連携について ～列島会・あきの会施設見学の実施～

令和7年6月28日、令和健康科学大学において「福祉と医療の連携を考える会」が開催されました。本会は、列島会・ゆとり・あきの会の3法人が主催し、医療や福祉の現場で実際に行われている支援の取り組みが発表されました。発表では、利用者一人ひとりの個性を尊重した多様な支援のあり方が数多く紹介されました。

今回の会に先立ち、私達は列島会およびあきの会の各施設を見学する機会をいただきました。列島会では、全国でも受注売上が高く、規模の大きな就労支援事業所を展開しており、とりわけ障がいの特性を活かした芸術活動が印象的でした。現在は4名のアーティストの方々が、それぞれの感性を活かして創作に取り組んでいました。あきの会では、「障害児医療生活支援ホーム 虹の家」を運営しており、特に「在宅療養児一時受け入れ支援事業」に力を注いでいます。併設の「なないろ診療所」では、施設利用中に受診や薬の処方も可能で、ご家族のニーズに寄り添った支援が行われている点が大変印象的でした。見学を通じて、患者さんが病院を退院された後の「生活期」にこそ、継続的であたたかな支援が必要であることをあらためて認識する機会となりました。

今回学んだことを今後の活動に生かすために、むすびプロジェクトでは「地域を支え、人に寄り添い、人生を応援する」という理念を大切にしながら、これからも活動を続けてまいります。

むすびプロジェクト　稲川利光

運動会

10月27日

令和7年10月27日（月）、各病棟にてリハビリテーションとリフレッシュを兼ね、秋の運動会を開催しました。

参加された患者さんの表情は、秋晴れの空のように明るく笑顔があふれ、一生懸命取り組まれていました。

また、ご面会にいらしたご家族にも温かく見守っていただき、患者さんにとって安心感のある、楽しいひとときとなりました。　　看護部　高橋

ラオス講演会

10月9日

令和7年10月9日（木）、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN赤尾氏の講演会を開催しました。

子どもたちの笑顔と健康のために、「医療・教育・予防」で支える活動や、現地の自立を見据えた温かい活動に、多くの学びをいただきました。

総務課　本間

手指衛生勉強会

8月21日

令和7年8月21日（木）、「手指衛生勉強会」を実施いたしました。

手指衛生は、院内感染を防ぐための基本であり、同時に、もっとも重要な対策の一つです。勉強会では、正しい手洗い手順やアルコール消毒の使用方法、場面に応じた適切な手指衛生のタイミングなどについて、改めて確認を行いました。

職員一人ひとりが手指衛生の意識を高め、日常業務の中で確実に実践していくことが、患者さんの安全と安心につながります。

当院では、今後も継続的に研修・勉強会を実施し、職員全体で感染対策意識の向上と安全な医療環境づくりに努めてまいります。　　総務課　丸山

移乗動作介助

-起立動作～着座までの介助方法の流れ-

立位保持ができる人

1 介助者は対象者の両脇の下から肩甲骨を覆うように手を当てる。

2 体を前に出してお辞儀をしながら体重をお尻から足へと移動する。

3 体重が足へ移動したタイミングで、上方向に軽く持ち上げながら膝がしっかりと伸びるように立たせる。

4 左右への体重移動を行いながら方向転換をする。

5 勢いがつかないようにゆっくりと着座する。

2、3は上記を参照してください。

立位保持ができない人

1 介助者は対象者のズボンを持つ。

2 介助のもと、体を前に出してお辞儀をさせながら体重をお尻から足へと移動する。

3 体重が足へ移動したタイミングで、お尻を持ち上げながら方向転換し、ゆっくりと着座する。

リハビリテーション課　梶原・藤田